

## II 調査結果の概要

## 平成 18 年度一万人アンケートの実施結果について〔概要〕

一万人アンケートは、県民の皆さんの県行政の各分野に対する満足意識、重要意識等を把握し、県政運営に活用するため実施しています。このたび、平成 18 年度の結果をとりまとめましたのでその概要を報告します。

### 1 三重県の住みやすさについて

#### (1) 三重県の住みやすさについての評価（集計資料 p1）

県全体で、三重県は住みやすいと答えた方の割合は、81.7%となり、前年に比べ 3.2%減少しました。

調査年度	H10	H12	H14	H15	H16	H17	H18
「住みやすい」と答えた方の割合	76.4%	80.7%	77.7%	82.2%	82.3%	84.9%	81.7%

（「とても住みやすい」と「住みやすい」の回答を合わせたもの）

#### (2) 今後の定住意向について（集計資料 p3）

15 年度からの調査項目

今後も三重県に住みたいと答えた人の割合は 76.7%となり、昨年度より 1%減少しています。

調査年度	H15	H16	H17	H18
「今後も三重県に住みたい」と答えた方の合計	80.2%	76.1%	77.7%	76.7%

（「今の場所に住み続けたい」と「三重県内の別の場所に住みたい」の回答を合わせたもの）

### 2 県行政全般に対する満足意識、不満意識

県行政全般に対する満足（不満）意識を、44 項目における満足意識、不満意識の平均でみると、満足意識はわずかに増加し、不満意識は 0.6%減少しています。

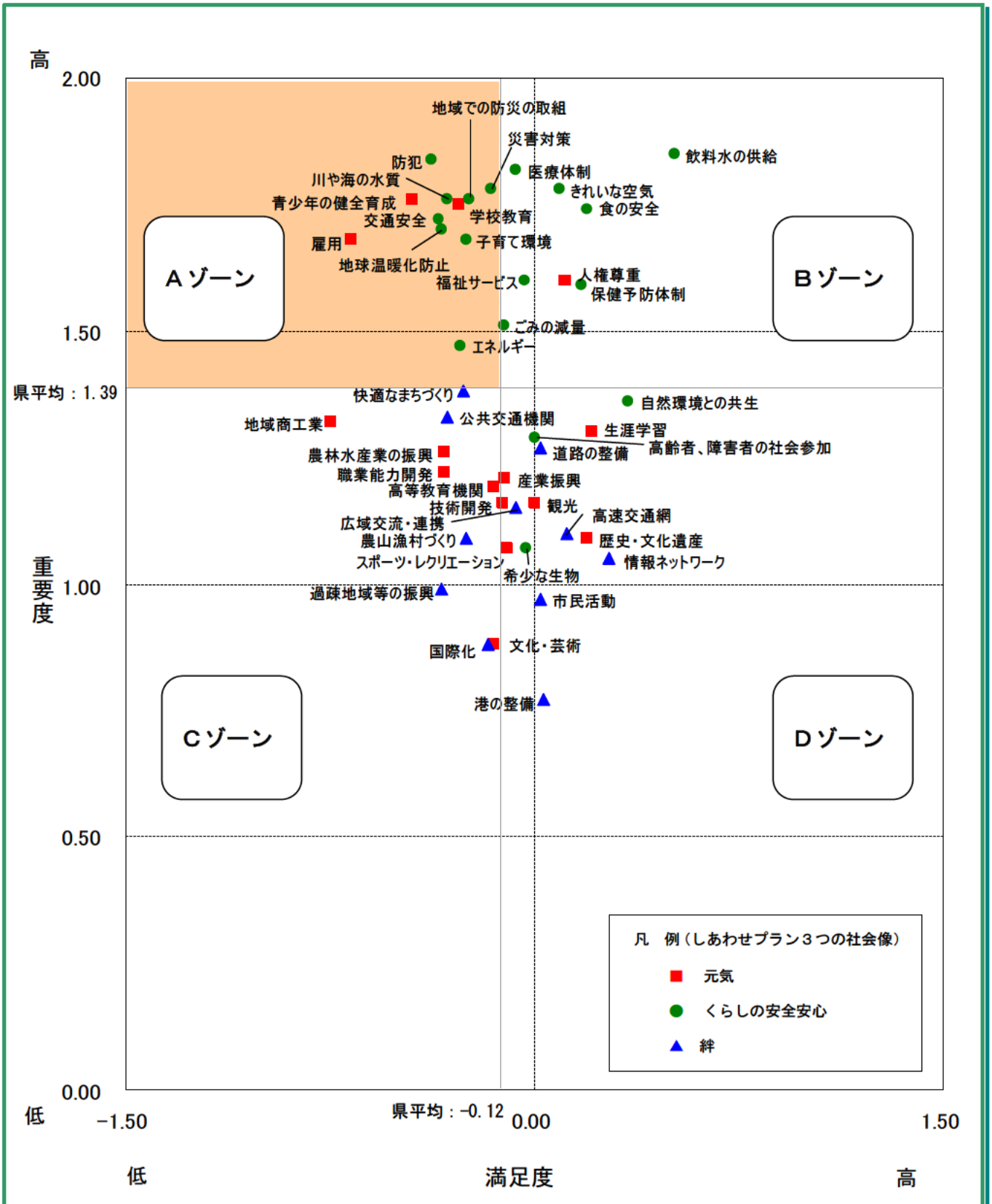
調査年度	H10	H12	H14	H15	H16	H17	H18
満足意識の平均値	12.1%	11.8%	11.9%	11.3%	20.0%	21.1%	21.2%
不満意識の平均値	30.5%	28.3%	28.9%	26.5%	25.0%	25.3%	24.7%

（平成 16 年度に設問の表現を変更したため、平成 15 年度以前は参考扱い）

### 3 県行政の各分野における取組について

アンケートで得られた重要意識・満足意識から計算した重要度・満足度（※参考資料・「分析の考え方」を参照）を、それぞれ縦軸・横軸にとって44項目の回答結果をプロットすると、下図のようになります。

図 重要度と満足度の関係（平成18年度）



## (1) 県全体の重要度、満足度の分析

### ・取組に対する県民のニーズが特に高いもの

#### 【Aゾーン 重要度が平均値より高く、満足度が平均値より低い項目】

「重要度・満足度プロット図」の左上に位置する項目は、施策の必要性が充分認識され、特に取組の推進や改善に対する県民のニーズが高い項目と考えられ、従来の施策の取組について、さらに改善を検討する必要があります。

主 な 項 目
「学校教育」「青少年の健全育成」「地域での防災の取組」 「災害対策」「交通安全」「防犯」「子育て環境」「川や海の水質」 「地球温暖化防止」「雇用」など

※項目は、県民しあわせプラン・戦略計画の施策番号順に並べています（以下同様）。

### ・取組の必要性と内容に対する県民の評価が得られているもの

#### 【Bゾーン 重要度、満足度ともに平均値より高い項目】

「重要度・満足度プロット図」の右上に位置する項目は、施策の必要性が充分認識され、その取組にも満足されている項目と考えられ、今後も現在の水準を維持するため、着実に取組を推進する必要があります。

なお、「飲料水の供給」は従来から重要度、満足度ともに高い評価を得ています。

主 な 項 目
「人権尊重」「食の安全」「保健予防体制」 「福祉サービス」「きれいな空気」「飲料水の供給」など

### ・取組に対する県民の満足度は低いものの、必要性の認識も低いもの

#### 【Cゾーン 重要度、満足度ともに平均値より低い項目】

「重要度・満足度プロット図」の左下に位置する項目は、取組の推進や改善に対するニーズは高いものの、他の施策と比較してその必要性の認識が低い項目と考えられ、施策の重要性をさらに認知してもらえるような取組とともに、従来の取組の改善も検討する必要があると考えられます。

主 な 項 目
「職業能力開発」「農山漁村づくり」「過疎地域の振興」など

・必要性の認識は低いものの、取組に対する満足度は高いもの

【Dゾーン 重要度が平均値より低く、満足度は平均値より高い項目】

グラフ右下に位置する項目は、他の施策と比較してその必要性の認識は低いものの、取組には満足されている項目と考えられ、着実に取組を推進するとともに、施策の重要性についてさらに認知してもらえ取組を進める必要があると考えられます。

主 な 項 目
「歴史・文化遺産」「情報ネットワーク」など

(2) 地域別の重要度、満足度の分析

地域別の特色を把握するため、5つの地域区分ごとに重要度・満足度を計算し、「重要度・満足度プロット図」を作成したところ、以下のような特色がみられました。

地域区分	特に県民ニーズが高い項目（Aゾーン）等に関する地域の特性
北 勢	県全体と比較して、「福祉サービス」「ごみの減量」「きれいな空気」の満足度が低くなっている。
中南勢	県全体と比較して、「快適なまちづくり」へのニーズが高くなっている。
伊勢志摩	県全体と比較して、「農林水産業の振興」「産業振興」「観光」「地域商工業」へのニーズが高くなっている。
伊 賀	県全体と比較して、「医療体制」の満足度が低く、一方で、「災害対策」への満足度が高くなっている。
東紀州	県全体と比較して、「医療体制」「地域商工業」及び交通面に関連する項目へのニーズが高く、一方で、「防犯」「川や海の水質」の満足度が高くなっている。

なお、「重要度・満足度プロット図」のAゾーン（県全体）に入っている、特に県民のニーズが高いと考えられる項目は下表のとおりです。

※項目は、県民しあわせプラン・戦略計画の施策番号順に並べています。

	県全体	北勢地域	中南勢地域	伊勢志摩地域	伊賀地域	東紀州地域
特に県民ニーズの高い項目 (Aゾーンに位置する項目)	03. 学校教育	03. 学校教育	03. 学校教育	03. 学校教育	03. 学校教育	03. 学校教育
	04. 青少年の健全育成	04. 青少年の健全育成	04. 青少年の健全育成	04. 青少年の健全育成	04. 青少年の健全育成	04. 青少年の健全育成
	10. 地域での防災の取組	10. 地域での防災の取組	10. 地域での防災の取組	10. 地域での防災の取組	10. 地域での防災の取組	10. 地域での防災の取組
	11. 災害対策	11. 災害対策	11. 災害対策	11. 災害対策		11. 災害対策
	12. 交通安全	12. 交通安全	12. 交通安全	12. 交通安全	12. 交通安全	12. 交通安全
	13. 防犯	13. 防犯	13. 防犯	13. 防犯	13. 防犯	
	17. 子育て環境	17. 子育て環境	17. 子育て環境	17. 子育て環境	17. 子育て環境	17. 子育て環境
					18. 医療体制	18. 医療体制
		19. 福祉サービス				
		22. ごみの減量				
		23. きれいな空気				
	24. 川や海の水質	24. 川や海の水質	24. 川や海の水質		24. 川や海の水質	
	25. 地球温暖化防止	25. 地球温暖化防止	25. 地球温暖化防止	25. 地球温暖化防止	25. 地球温暖化防止	25. 地球温暖化防止
				26. 農林水産業の振興		
				27. 産業振興		
				28. 観光		
				30. 地域商工業		30. 地域商工業
	31. 雇用	31. 雇用	31. 雇用	31. 雇用	31. 雇用	31. 雇用
						36. 高速交通網
						37. 道路の整備
					38. 公共交通機関	
		40. 快適なまちづくり	40. 快適なまちづくり			
43. エネルギー	43. エネルギー	43. エネルギー	43. エネルギー	43. エネルギー	43. エネルギー	

網掛け部分は、県全体ではAゾーンにないが、地域段階でAゾーンに入っている項目

### (3) 時系列分析でみた重要度、満足度の分析

平成 16 年度から今年度までの 3 年間の時系列分析を行いました。

#### < 県全体の 3 年間の動き >

- ・満足度が上がっているもの・・・「雇用」「高速交通網」「道路の整備」
- ・満足度が下がっているもの・・・「子育て環境」
- ・特徴的な動きをしているもの・・・「地域での防災の取組」「災害対策」

平成 17 年度に満足度が下がり 18 年度は持ち直しています。

#### < 県全体の 3 年間の動きと地域別の 3 年間の動きの比較 > (集計資料 p 155 ~ 159)

- ・北勢地域・・・ほぼ県全体の動きと同様の動きをしています。
- ・中南勢地域・・・ほぼ県全体の動きと同様の動きをしています。
- ・伊勢志摩地域・・・県全体では動きのない「青少年の健全育成」「福祉サービス」「きれいな空気」「川や海の水」「地球温暖化の防止」において、3 年間に満足度が徐々に上がるという動きが見られます。
- ・伊賀地域・・・県全体では、平成 16 年度から 18 年度にかけて満足度が大幅に上がっている「高速交通網」「道路の整備」のうち、「道路整備」については動きがなく、「高速交通網」については、平成 18 年度に満足度が下がるという動きになっています。
- ・東紀州地域・・・県全体では満足度が上がっている「雇用」について、動きがなく、県全体で動きのない「医療体制」については、平成 17 年度に大幅に満足度が下がり、18 年度においてもほとんど変わっていません。

## 4 認知意識による重要度、満足度の分析

行政の具体的な取組を認知している人と認知していない人を比較すると、認知している人の重要度、満足度は高く、認知していない人の重要度、満足度は低くなっており、施策の取組を知っているほど重要性を訴える傾向や、施策の取組を知っているほど満足している傾向がみられます。

認知の如何によって重要度、もしくは満足度の差の大きい項目のうち、特に認知意識が低い「港の整備」「希少な生物」「公共交通機関」などは、その取組内容を積極的に広報していくことで、施策や事業の必要性について県民の理解や満足を得られる可能性があります。

表 認知の如何により重要度の差が大きい上位5項目

項 目	重 要 度			認知意識
	認知している人	認知していない人	差	
文化・芸術	1.18	0.68	0.50	38.3%
港の整備	1.08	0.62	0.46	28.1%
情報ネットワーク	1.26	0.83	0.43	49.0%
歴史・文化遺産	1.29	0.87	0.42	48.5%
希少な生物	1.38	0.96	0.42	22.1%

表 認知の如何により満足度の差が大きい上位5項目

項 目	満 足 度			認知意識
	認知している人	認知していない人	差	
医療体制	0.39	-0.49	0.88	44.1%
公共交通機関	0.18	-0.64	0.82	36.1%
スポーツ・レクリエーション	0.27	-0.52	0.79	49.0%
高速交通網	0.42	-0.36	0.78	57.2%
自然環境との共生	0.78	0.01	0.77	38.8%

なお、「防犯」「飲料水の供給」等の重要度上位項目については、認知していなくても重要度が高くなっており、認知の如何に関わらず重要と感じている人が多くなっています。

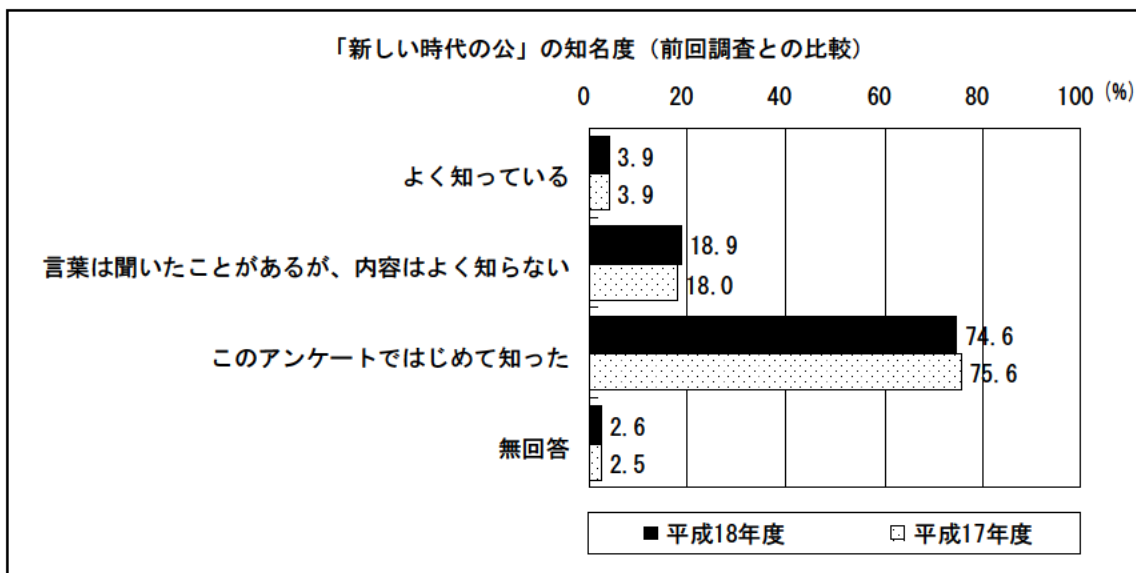
主 な 項 目
「飲料水の供給」「防犯」「医療体制」「災害対策」 「きれいな空気」「青少年の健全育成」「地域での防災の取組」 「川や海の水質」など



## 5 地域の人をつながりと活動に関する意識についての調査

### 「新しい時代の公」について

「新しい時代の公」という言葉を「このアンケートではじめて知った」と答えた人の割合が74.6%で、昨年度よりわずかに減少しましたが、ほぼ昨年度から変化はありません。



「新しい時代の公」の取組への考えについては、「大切だと思うが、まず考え方を広めていくべきである（72.6%）」と「大いに進めるべきである（19.4%）」を合わせた、取組に肯定的な人の割合が90%を超えました。

「新しい時代の公」の取組は、17年度から本格的に進めているところですが、引き続きこの考え方を県民の皆さんに広めていくとともに、「新しい時代の公」の実現に向けて着実に進めていく必要があると考えられます。

